## 県立開陽高校新築工事安全祈願祭

# 高校教育の新しい風に

### 校舎 合計延べ約1万2800㎡

県立開陽高等学校新築工事の安全祈願祭は25日、鹿児島市上福元町の現地で開き、発注の県や設計・施工関係者ら55人が出席、着工を祝うとともに工事の無事故無災害を祈念した。

安全祈願祭では、地鎮の儀で刈り初めの儀を設計監理代表の溝口駿㈱創建築計画研究所代表取締役が、鍬入れの儀を脇田稔県教育長が、穿ち初めの儀を施工代表の前田忠二㈱前田組取締役会長、前屋敷俊光㈱前屋敷組代表取締役、渡辺紘起㈱渡辺組代表取締役会長が、それぞれ力強く行った。

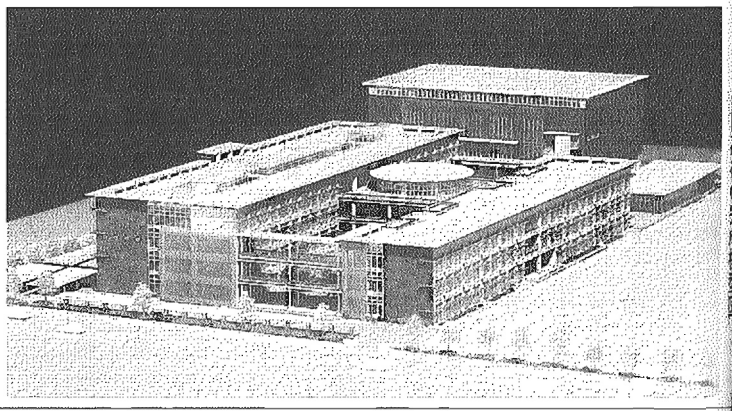
続いて、開いた直会では、脇田教育長が「開陽高校は本県初の単位制高校。同校には中途退学した学生から社会人、高齢者まで幅広い方を受け入れ、それぞれの好む科目で、好きな時間に勉強できる。当校が高校教育の新しい風となり、また、生涯教育の場として活用されることを願う」と挨拶。また、施工業者を代表して前田会長が「県民の期待の大きい新設高校の施工にあたり、重責に身の引き締まる思い。当局、監理団のご指導をいただきながら、多くの業者、業種の方と一致結束しゼロ災で無事完工させたい」と謝辞を述べた。

### 開陽高校の概要

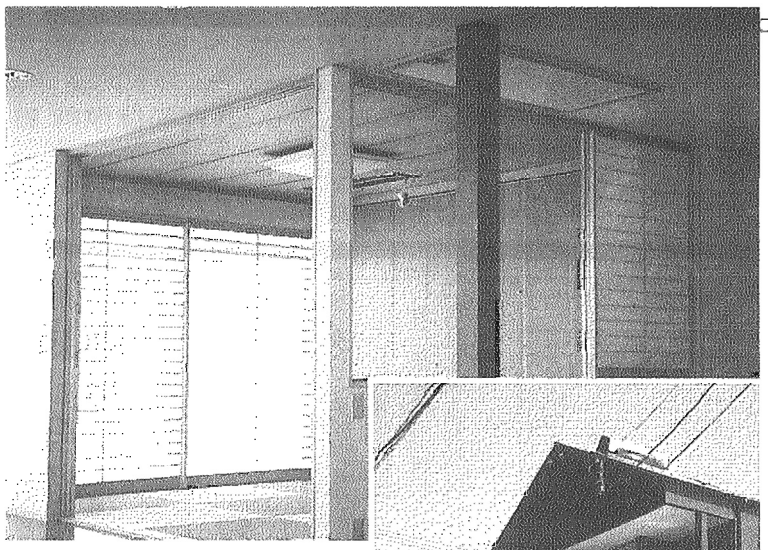
開陽高等学校の新校舎の建設地は、鹿児島市上福元町地内の旧農業試験場等跡地で、敷地面積は2万9476平方㍍。施設概要は、校舎が普通教室棟（RC造3階建て）、管理棟（RC造4階建て）、図書館棟（RC造3階建て）の合計延べ約1万2800平方㍍。屋内運動場はRC造4階建延べ約3800平方㍍で、内部に体育館、武道館、プール等を有す。設計では、①多用な履修形態、選択科目があり、教室間の移動が頻繁に行われることから、移動空間を分かりやすく、速やかに移動が可能②自然採光・通風を積極的に取り入れられ、憩いの場となる中庭や光庭を設置③県産材の積極的な活用と経済性に考慮したシンプルなデザインーなどを基本理念とした。

設計はプロポーザル方式で選ばれた創建築計画研究所・新建築設計事務所・プロト設計室JVが担当。本体工事は管理棟等の1工区を前田組・内門工務店・深野木組JV、の2工区を前屋敷組・水口建設JV、体育館棟の3工区を渡辺組・中山建設JVが担当する。

穿ち初めの儀を行う前田会長、前屋敷社長、渡辺会長（左から）＝鹿児島市の上福元町で



## 南国宮崎にふさわしい住宅



アートボックス

南国宮崎のふさわしい住宅ということで、宮崎の気候、風土が感じられる家造りとシンプルさをコンセプトに設計を手がけた。

外観は宮崎県を象徴する色にもこだわり、基本になる色を決めるのに苦労した。その中で、設計者が地元で生まれ育ったこともあり、生活の中で感じ取ったイメージが青であったことから、外壁に青色を取り入れた。また、

### 青使い建物の色にこだわり

1階部分に事務所も併設することから、1階の外壁にシルバーを採用し、ブルーの色を生かす配慮もなされている。

内部は玄関から居間まで扉を設けず、開口を多く取ることで、通風を良くし快適に過ごせる工夫もなされている。また、事務所はコンピューターなどのOA機器に自由に対応するため、フリーアクセスフロアを使用し対応している。

▽工事名＝小川邸新築工事
▽場所＝宮崎市下北方町横小路
▽建物規模＝W造2階建165㎡
▽設計＝井口設計㈲
▽施工＝㈲金丸建設

## 県、優良賃貸住宅制度説明会

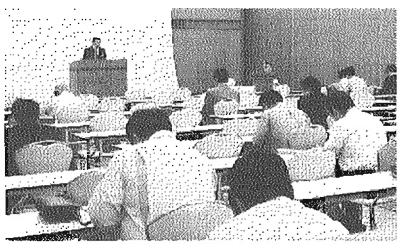
# 効率的助成制度学ぶ

県住宅課は25日、鹿児島市のホテルウェルビューカゴシマで優良賃貸住宅制度説明会を開き、業界関係者らが参加、高齢者向け優良賃貸住宅や制度などについて学んだ。

冒頭、内田紘県住宅課技術補佐が「国では、13年6月に高齢者向け優良賃貸住宅に関する制度が公布、8月から試行された。また、民間の土地所有者等による中堅所得者や高齢者の居住のための優良な賃貸住宅に対する効率的な助成を通じて、公営住宅を補完する特定優良賃貸住宅及び高齢者向け優良賃貸住宅の供給を促進する」など、制度の紹介をした。

続いて、西薗幸弘同課計画融資係長、井上雄嗣同課技術主査らが「県優良賃貸住宅の概要」、「高齢者の居住の安定確保に関する法律」、「高齢者向け優良賃貸住宅」、「募集要領」などについて、説明した。

西薗係長は「県では、10月から公共賃貸住宅の情報をホームページで送信し、どこからでも情報を検索することができるシステムが整備され、高齢者が自立した生活が行えるような優良企業などの情報も紹介している」など具体的に述べた。



制度について学んだ説明会＝鹿児島市のホテルウェルビューカゴシマで

## 13年度標識改善懇談会

# わかりやすさを検討

全国道路標識週間にちなみ、道路管理者側と利用者側代表の約30人が参加して、13年度標識改善懇談会が25日、鹿児島市のステーションホテルニューカゴシマで開かれ、国道・県道などの重複路線の案内や広報活動、標識BOXの設置状況など、今後の問題点及び改善方法などを話し合った。

冒頭、喜多川孝鹿児島国道工事事務所副所長は「本県においては、交通社会の近代化に伴い、利用者のニーズの多様化によって交通事情も急激に変化しております。今回の審議も利用者の立場に立った積極的な審議を進めていただきたい」と挨拶。

続いて、道路管理者（鹿児島国道工事事務所、日本道路公団）・交通管理者（鹿児島県警）双方から標識の整備状況や、標識BOXの利用状況及び拡充、道路標識週間における広報活動などが報告され、その中で、鹿児島国道工事事務所の池口正晃調査課長が3年前から同事務所が事務局となって進めている「わかりやすい案内標識検討会」の現状を報告、「道路標識の設置位置の問題や、表示内容が分かりにくいなどの問題が街頭アンケートで出た」と述べ、それを踏まえて県や指宿市との共同で、連続的なアプローチや、書き方の問題を改善した標識の試行事例などを発表した。

また、懇談会の席では国道10号と504号が重複する区間で、方面及び距離が標示されている標識があり、12年11月頃、路線番号を二重に取り付けられて紛らわしい。との利用者からの声に、管理・利用者双方から積極的な改善意見が出された。

標識の問題点と改善方法を検討した懇談会＝鹿児島市のステーションホテルニューカゴシマで

建設業許可申請
変更届・資格審査申請・官公庁許認可
登録申請手続き致します
許認可コンサルタント
安田行政法務事務所
鹿児島市中央町5－41 トーカンマンション白雲602号
TEL 252-8084
FAX 252-1144